

MDT 実施ガイドライン作成

タイでは政治的混乱があり、多くの方々にご心配をおかけしましたが、ひとまず終息に向かい、今週から通常通り活動を進めているところです。

プロジェクトの活動も2年目に入り、今年度の一番大きな活動は、MDT 実施ガイドライン作成です。ガイドライン作成の要望は、プロジェクト開始前に実施した MDT ワークショップで、MDT メンバー自身からあがってきたものです。異動が多い公務員の間では引継ぎが不十分で、新しく人身取引対策の担当になった職員はとまどうことが多いようです。他方、MDT メンバーは、新人に手取り足取り教えている時間も余裕もなく、売春宿や工場に突入しての救助活動などの場合チームとしての活動に困難を感じるものがあつたようです。このような事態に備えるために、事前にどのような準備が必要か、何を持っていくべきか、現場ではどのように対応すべきかなど、現場で使えるチェックリストが必要だという声が多く挙がっていました。

MDT 実施ガイドラインは、MDT メンバーのために作成するものですのでメンバーの意見が最も重要です。そこでプロジェクトでは、中核的なメンバーからなるワーキンググループ (WG) を立ち上げました。これからの1年間、定期的集まり、ガイドラインの中味を固めていく予定です。

第一回目のWG会合が5月7日に開かれました。WGのメンバーはBATWCのカウンターパートと私たち専門家を入れて計14名です。メンバーの顔触れは、BATWC内の外国人被害者保護とタイ人被害者保護担当の各課長、シェルター所長、警察、入管、検察官、NGOなどです。開催当日になって、他の会議と重なったため不参加や遅れるとの連絡が次々と入り、大事な1回目の委員会がこんな出だしではとがっかりしてい

たのですが、会議が始まると徐々に集まってきて、他の会議終了後駆けつけてくれたメンバーもあり、最終的にはほとんどが集まりました。第1回目でしたので、ガイドライン作成の趣旨を確認し、意見を出し合いました。現時点での主な合意事項は

- ❖ 誰でも（特に新人）理解できる分かりやすいものにする
- ❖ 絵などを用い、一目でわかるものにする
- ❖ 持ち運びに便利な小さめのサイズにする
- ❖ 基本的情報、タイ国内での被害者と海外でのタイ人被害者の3部に分ける、でした。

最終的にどのような形にするかはもう少し時間をかけて決めることになりました。

今後は、2か月に1回開催の予定のWGの他、MDT ワークショップを通じて幅広いメンバーからの意見を取り入れていく予定です。

実はBATWCでは、昨年国際機関の支援でタイ人被害者の受入に特化したマニュアルを作っておりましたので、その進捗状況を注目していましたが、なかなか大変そうでした。



今回のガイドライン作成は、多様な職種からなるMDTの意見をまとめていく作業ですので、時間がかかりますし混乱も予想されます。

でもWGメンバーはやる気満々でしたので、どのようなガイドラインが出来上がるのか、今から楽しみです。

今後の予定

6/5 反人身取引デー